

■柳井市観光振興ビジョン進捗管理会議 議事録（要旨）

日 時：令和7年3月21日（金）午後2時00分から午後4時00分まで

会 場：柳井市役所201会議室

出席委員：國本善平、木阪泰之、松重伸子、蔵本典子（職名、敬称略）

事務局（商工観光課）：課長酒井正樹、課長補佐石川義之、課長補佐石岡裕子、主査宮田芳成

傍聴者 0人

議事資料 柳井市観光振興ビジョンの目標に対する進捗・評価について

柳井市観光振興ビジョン

柳井市観光振興行動計画（後期）

観光振興ビジョン進捗会議議事録（令和4年度、令和5年度）

令和7年度ビジョン関連予算

概要

事務局から、事業の進捗状況について『「柳井市観光振興行動計画」後期（令和3～7年度）』により説明を行った。それに対する意見の概要は、次のとおり。

●「柳井市観光振興行動計画」について

- ・今回の検証を基にビジョンの最終年度へ向けての行動計画を修正し、令和7年度は実施結果・実績・課題についてまとめ、第3次柳井市総合計画に反映させていく。

●振興の4本柱

（1）百話百景創作プラン

- ・教育委員会文化財室と協議し、地域文化の掘り起こしとして「しらかべ学遊館」にある資料を地域の公民館に提供し、情報の集約と整理を行い、整理のできたものから地域文化としてHPやSNSで発信していく。

（2）「担い手確保」抜本改革プラン

①観光地教育の開始

- ・金魚ちょうちん祭り事業での教育現場への派遣は継続的に実施している。
- ・柳井市観光協会高校生部会によるSNSでの情報発信のフォロー数が結構付いている。
- ・一般市民向けの生涯学習講座に観光のトピックスをピックアップしたパッケージを作成してはどうか。
- ・高等学校での地域学習や新商品開発の授業において、行政・観光協会が観光のPR活動を働きかけていただきたい。

②観光行政の資質向上

- ・広島広域都市圏圏域職員での研修は職員としてのベーシックな部分なので、行動計画に掲載は不要。

③役割分担

- ・どの組織がビジョンのどの役割を担うか、施策の振り分けの明確化が初動年度に出来ていなかった。
- ・「スポーツ交流推進室」が設置されて、スポーツと観光をセットで進めていく。

④観光協会の法人化

- ・両観光協会と行政との会議は開催していない。
- ・各観光協会内で法人化についての協議は行っており、共通認識はある。
- ・次年度では法人化のメリット、デメリットを整理して、プラットフォームを作ったうえで検討会議を行う。

⑤（仮称）柳井市観光推進機構の設立

- ・機構ではなく協議会という連携体制を行政で立ち上げ、連絡体制を作る。特に法人化してからでなくても法人化の検討と並行して進められる。
- ・連絡体制を作って役割分担を整理したものが協議会になる。

（３）「観光力結集施設」設営プラン

①「白壁の町並み」、「麗都路通り」、「柳井川」のエリア化

- ・河川公園の活用については、柳井金魚ちょうちん祭りに際し、河川公園一帯を屋台村会場にしたことで、飲食ブースを広くとることができた。
- ・駅前エリアの空き店舗カルテは、廃業については把握できないが、創業箇所については創業補助金の申請で把握できている。
- ・空き店舗カルテの更新は随時お願いしたい。
- ・重要伝統的建造物群保存地区選定 40 周年の記念式典については市民団体と教育委員会文化財室が行い、観光関連のイベントは実施できなかった。関連企画として実施された白壁の街並みに AR 金魚ちょうちんが現れる仕掛けを柳井市観光協会高校生部会が SNS で挙げている。

②「大畠瀬戸」の拠点化

- ・大畠観光センターのリニューアル（増築・改築・移転等）を7年度中に整理する。
- ・令和8年度が大畠観光センターの指定管理の更新年度にあたるため、そのタイミングで問題点を整理する。
- ・令和8年度のデスティネーションキャンペーンのプレイベントとして既存の観光資源を使い、キャンペーン向けの企画を行う。

（４）「新たな人の流れ」創出プラン

①「観光知の拠点」づくりとネットワーク化

- ・実施事業は従前から継続している事業であり、次年度も引き続き行う。

②「観光力」発揮のための施策連携の推進

- ・EXPO 大阪・関西万博、デスティネーションキャンペーンに向けた事業を行う。
- ・施策連携、行政内部の資質にかかわることで、肅々とやっていただきたい。職員研修はここに関連することでは。

③「人と仕事と定住」を組み込む観光振興施策

・定住促進補助金に新しい広告を出して、子育て世代が定住する、若い世代にとって良い。

●必須の観光インフラパッケージ整備戦略

①「観光風土」の不断の醸成

・今年度ボランティアガイド養成講座未実施なのは新規のボランティアガイドがいなかった。
・ウエストエクスプレス銀河対応でボランティアガイドに出てもらった。

②「観光資源」の意欲的獲得と整備

・「国木田独歩」は観光資源としてよいと思う。情報をブラッシュアップして足元を固めたほうが
いいと思う。

③「おもてなし」の常態化と進化

・新しい図書館と白壁の街並み、茶臼山古墳など、話題性があるときに仕掛けをしては。

④「情報マネジメント・プロモーション力」の資質向上と差異化

・観光大使について、より情報発信をしてもらうような施策の検討が必要。

⑤「広域連携」の質実ある展開

・令和7年度で、1市4町広域のパンフレットを制作する。
・前からの課題であるが、1市4町での新しい魅力あるプロジェクトをやってはいかがか。（遠方
から見ると1市4町は一緒である。）

●全体

・ビジョンについて、実施結果、実績、課題といったものを整理して評価する。評価報告書という
ようなものが必要になるという認識である。
・どれだけ進捗管理が出来ていたか、多角的にできるだけ評価しなければならない。
・現ビジョン終了後の次のフェーズをどうするか、方向性的なものが必要であると考えている。
・令和9年度の第3次総合計画に向けて、7年度と8年度に方向性を検討し、もう少し具体性のあ
る、実現可能性のある観光プロジェクトを戦略的に集中して行う。
・通常業務定例イベントは総合計画に盛り込み、戦略的なプロジェクト（1市4町での連携を含
む）は全市を挙げて共通理解で行っていくというようなまとめ方はあると思う。